

黒湯

簡素さの美德

黒湯は十和田八幡平国立公園でも特に簡素で本格的な湯治宿です。乳頭温泉郷の奥深く、急勾配の細い道の下にある黒湯は、雪で通行が困難になる冬は営業を休止します。黒湯には 4 棟の宿泊棟があります：2 棟は自炊客用、もう 2 棟は食事付きの旅館です。

「私が学生だった 1960 年代は、ここに来る客のほとんどが自炊をしていました」と会長の池田泰久さんは振り返ります。「昔からのお客様は、今でも森でタケノコ狩りやキノコ狩り、山菜採りなどをするために決まった時期に来られる方が多いです。そうした方々は、自分で作った料理を他の人と分けたり、交流したりして過ごすことを好まれます。しかし、この頃では自炊客を通じた売上は全体の 1 割以下になっています」

黒湯の湯治棟は、大正時代（1912-1926）に地元で伐採されたクリ材とスギ材を使って建てられました。もともとの客層は、農閑期に保養に訪れる農民たちでしたが、重要人物が訪れたこともありました。他の建物から少し外れたところにある離れは、昭和天皇（1901-1989）の弟の一人である高松宮（1905-1987）の訪問のために 1963 年に建てられました。スポーツ好きだった高松宮親王は、春になると八甲田山系や八幡平にスキーをしによく訪れていました。

建築に関しては、昔ながらの方法にこだわる実際的な理由があります。硫化水素ガスは鉄筋コンクリートの鉄筋を腐食させるため、素朴な木造建築の方が、経済的で長持ちする上、この国立公園の自然のままの景観にもより調和するのです。

「乳頭温泉の精神は、目立つことにはありません」と泰久さんは言います。「旅館として、私たちにはこの地域を守る義務があります。私たちは自然の中で暮らしており、自然はおいしい水や食べ物で私たちを支えています。温泉もその生態系の一部です。人々はここに癒しを求めてやってきます。ここは、社員旅行の団体客を迎えるような、大規模で近代的な温泉ホテルとは別の世界なのです」

[注：この用語集はボックスで囲んでテキストのどこに挿入しても構いませんが、巻末に附録として記載するのが良いと思います]

十和田八幡平温泉用語集

Jisui 自炊による湯治

Konyoku 混浴

Konyoku-buro 混浴風呂

Ondoru 地熱で温められた地面に筵を敷いた「風呂」

Toji 湯治

Tojiba 湯治場

Yuamigi 混浴で身につける衣類
